

# 本を選ぶ

NO. 353 2014年(平成26年)10月20日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

〒335-0004 埼玉県蕨市中央5-20-1 TEL=048-432-3726

- <くろん・ぼわん>選書ツアー
- 『サイゴンノオト』は元気!元気!
- ビデオライブラリーのバリアフリー化
- 帰ってきた図書館員(33)
- ドイル書誌調査余談(81)



## 選書ツアー

7月に、県内の高校から英語部の生徒さんが国立女性教育会館に勉強合宿にみえました。9月に実施される文化祭で、国際女性問題について展示発表を行うため、学習項目を設定し、会館で勉強する、というものです。

勉強と一口に言っても、学習や資料作成の時間を取る他に、会館の研究者等から講義を受けたり、女性教育情報センターで関連図書を探す選書ツアーを実施したりと、1泊2日で集中的に学習を行う、充実した合宿だったようです。

情報センターで実施した選書ツアーは、情報センターの見学に始まり、検索のレクチャーを受け、実際に自分で興味のある本を検索し、書架に探しに行き、展示したい本を決めて、館内で読んで推薦コメントを作成する、という内容です。かかった時間は2時間半で、「国際女性問題について」という生徒さん達の目的意識がはっきりとしていた分、迷うことなくコメント作成まで進んだ姿が印象的でした。

選書ツアーは、色々な形で行われます。書店や出版社で実施されるものもあれば、今回情報センターで行ったもののように、図書館で行う例もあります。最も一般的に行われるのは、書店での実施でしょう。学生が数人のグループで出向いて、自分たちの学校の図書館にない本をユーザーの目線で選書し、図書館の本として購入された後、ポップ等を作成して図

書館に展示し仲間に勧める、というものです。

図書館員が選書する際は、カタログやウェブ情報といった二次情報から選書することが多いため、ユーザーに書店で買い付けてもらう形の選書を行うと、別の視点で本が選べて、蔵書の幅が広がるという利点があります。大学図書館での実施例が多く、私も以前大学図書館に勤務していた際に、学生さん数名と一緒に街の書店へ行ったことがあります。

大学生が選ぶ本はどんなものだろう、と思って観察していると、本を手にとってじっくり読み出す学生さんが多く、当初こちらが予想したように、「図書館がお金を出してくれるならあれもこれも」とはならなかったのが意外だったのを覚えています。実施後に学生さんに感想を聞いたところ、「図書館のお金で買ってもらうので、この本を選んでよいか、迷った」という感想もあり、毎日業務としてカタログから大量の本を購入していた身からすると、1冊の本を迷って買っている姿に、なんて素朴だろう、と感じ入り、選書の初心に立ち返ったものでした。

7月にいらした生徒さんたちは、9月の文化祭で選書した本を展示したとのことでした。スタッフが展示の様子を見にお邪魔したところ、教室を貸し切って本1冊ずつに見やすいようにキャプションが付けられ、飾り付けもされており、こちらの予想以上に力作の展示だったようです。文化祭当日は、受付の生徒さんがかけもちのお化け屋敷の企画でお化けのメイクをしていたらしく、お邪魔したスタッフは、まず入口でびっくりしたと話していました。

(匂坂 佳代子：国立女性教育会館)